

大学コンソーシアムひょうご神戸
2024年度 第1回 国際交流委員会
議事録

日時：2024年4月22日（月）15：00～16：00

場所：兵庫国際交流会館 1階 Nadacom Station

委員校：明石工業高等専門学校、芦屋大学、大手前大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西福祉大学、関西学院大学、関西学院短期大学、芸術文化観光専門職大学、甲南大学、甲南女子大学、神戸海星女子学院大学、神戸大学、神戸学院大学、神戸国際大学、神戸市看護大学、神戸市外国語大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸女学院大学、神戸親和大学、神戸常盤大学、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫県立大学 （計 26 校）

欠席校：関西福祉大学、芸術文化観光専門職大学、甲南女子大学、神戸海星女子学院大学、神戸学院大学、神戸市看護大学、神戸常盤大学 （7 校）

I. 報告事項

1) 2024年度国際交流委員会委員校について (資料 1)

コンソーシアムひょうご神戸（以下「コンソ」と記載する）の事業についてパンフレット内容に沿って鈴木次長より説明があった。特に国際交流委員会について、加盟校数、理事長改選について、学生の参加数、会費、助成金、予算、等の説明があった。日本人学生、留学生、教職員、地域住民、企業など多様な方を対象として、2000名以上の参加者がいることなどの説明があった。

また兵庫国際交流会館（以下「HIH」と記載する）が開催している国際交流プログラムも、同様に地域住民などに開かれた形で実施されており、コンソとの共催も多くあるとの説明があった。

次に各委員校の国際交流事業の状況、取り組み事例等の共有（自己紹介も兼ねて）があった。

・委員長校 兵庫県立大学：2019年度よりグローバルビジネスコースが開始。留学生、日本人混在ですべて英語で授業を行っている。海外の大学と協定を結び、送り出すことは可能でも、受け入れに課題が残る状況である。

・副委員長校 神戸市外国語大学：神戸市外国語大学は国際交流に非常に関心が高い。しかしコロナ禍・紛争により情勢が変わり、以前の状態に戻れていない状況である。協定校の開拓は続けているが、相互交流となると受け入れと派遣のバランスが重要で、行きたい学生は多いが、来てくれる学生が少なく、英・米圏は特に苦戦している。もう一点は、日本語学習のコースが登録制になるという大きな変化への対処の問題がある。日本語教師の養成をする面でも要対応である。

・明石工業高等専門学校：本校は15歳から5～7年の課程で学生を受け入れている。グローバル授業には力を入れており、新入生の6割はグローバル授業を選択する。また留学させたいという保護者も多数おられる。校長主導で全4学科にネイティブ教員を配置し、残るは電機情報工学科のみという状況である。

・芦屋大学：小さい大学なりにMOUを締結している。インバウンドで1年生から入学してくる学生が多く、日本語クラスも多数開講している。

・関西国際大学：コロナ禍後、海外に行きたい学生が増加している。また4月入学の留学生が昨年度の倍以上おり、対応しきれない部分もあるという状況である。

・甲南大学：4月からグローバル教養学環という新しい学位プログラムをスタートした。定員25名でダブル留学を実施している。ダブル留学とは英語圏とそれ以外の国への2回の留学をさせるという制度。また、協定校を増やしたい考えである。昨年は留学の受入における合理的配慮をどうするかという課題があった。今回は学生派遣において1週間程度の短期プログラムで留学する学生の合理的配慮をどうするかが課題となっている。

・大手前大学：現在、留学生は11か国から受け入れている。キャンパスの国際化を促進している。学部間、学科間で新しい取組、MOUを含め、検討している。留学生支援にも力を入れている。

・関西学院大学：4月に留学フェアを行い、新入生を中心に500名以上の参加があった。保護者からも関心が高い。SGU（スーパーグローバル養成事業）の拡大、また、協定校とより深い関係を築きたい考えである。留学生へのキャリア支援が弱く、強化したい。

・神戸大学：神戸大学とHIHが共同で行っている兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業（G-Navi）を本年度も継続して採択した。G-Naviは5年間の事業で、日本語教育者の育成支援も行っている。神戸大学はコロナ禍でも留学生数は減っていない。派遣は2019年度から減少し、昨年度から回復傾向にある。文科省の「大学の世界展開力強化事業」があり、アメリカと毎年1000人規模の交流をせねばならず苦勞している。

・神戸国際大学：神戸国際大学からの送り出しでは英語圏希望者が多く、協定校の国とバランスが悪い。しかし今年は韓国語圏に留学したい学生が増え、韓国語の研修留学を増やす予定である。受け入れでは中国、ベトナムが多かったが、最近では南アジアからの学生が増加しており、漢字の教育に苦勞している。

・神戸松蔭女子学院大学：学生数が減っており留学する学生も少ない状況のなかで、英語学科の学生しかできなかった留学が、今年からほとんどの学科で可能となり、増やしていきたい意向である。受け入れは現時点で6名。増加していきたい。

・神戸女学院：国際学部を改組し、留学生を増やしたい意向である。オックスブリッジプログラムを復活する。語学研修など送り出しは盛んだが、費用の高騰が課題となっている。

・神戸親和大学：コロナ禍があげ、送り出しは10ぐらいプログラムを用意したが、3つくらいしか実現しなかったという状況である。今年度の夏のプログラムも参加者が伸び悩み、円安影響・コロナの影響があるのか、人数が集まらない。茨城県にある大学と共同で、CAになるための韓国での研修ツアーを計画中である。神戸親和大学は在学生の1割強が留学生で、アジア系が増加している。日本語能力がなく教員が苦戦している。また、モンゴルの学生と交流を進めている。

・園田学園女子大学：園田学園女子大学はニュージーランドに独自のキャンパスがあり、留学プログラムがある。

・兵庫大学：韓国の大学3校と3月にMOUを締結した。協定の中身を濃くしたい意向である。留学生は43名在籍している。兵庫大学のグローバル化はまだ整っていないが、学内でセンター移動があり拡大するため、他大学の国際交流センターなど拝見したい。

2) 2024年度兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業受託（5年間）について（資料2）

国際交流拠点推進事業は今年度より5年間の受託で採択されたとの報告があった。HIHの特徴を活かし、外国人学生、日本人学生、地域住民との交流を通して留学生の定着をはかっていくこと、また資料2を参照しながら4つの事業の柱の説明があった。

留学生のメンタルヘルスに関しては新たな支援を準備中との報告があった。星晶会の医療相談およびHIAの生活支援について資料4-2を参照しながら説明があった。

支援者間ネットワーク強化の説明では、本日、委員会の後に開催する交流会についても紹介があった。

3) 大学コンソーシアムひょうご神戸、兵庫県国際交流協会(HIA)、JICA 関西
の3者協定について

(資料3)

協定を結んだことについて資料3を参照しながら報告があった。3者の強みを生かし、連携していく意向である。例としてJICA秋祭りを3者共催、また国際協力機関リレーインターンシップを計画している。

質疑応答

副委員長より、リレーインターンシップについて詳細な説明の依頼があった。

コンソより下記の回答があった。リレーインターンシップの実施は夏休み中である。募集は6月、実施は7～9月、各機関で1～2日間を予定している。留学生と日本人学生のマッチングは協定の3者で行う。全体の人数は2人ペア×3=6名くらいを予定している。応募が多ければ増やす予定である。

委員長より、インターンシップの終了後、委員の皆さんに報告をしてほしいとの依頼があった。

また、最後に委員長より、コンソの報告を受けて、留学生を安心・安全に受け入れる体制が整っているということを打ち出せる状況であるので、各大学で広報に力を入れてほしいとの声かけがあった。

II. 協議事項

1) 2024年度国際交流委員会事業計画について

(資料4-1) (参考資料1)

コンソより以下の説明があった。その後質疑応答があり、事業計画が承認された。

①国際交流委員会事業における達成目標と活動指標について

中長期計画Ⅱ期の3年目に入り、かねてより達成目標(%)と活動指標(人数/年)が連動していないとの指摘があった点について、改善した。達成目標に活動指標の5か年の参加者数を加えたとの説明があった。

②兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業について

(資料4-2)

昨年度のバスツアーの紹介があった。加盟校からの取組の提案や新たな希望も歓迎するとの声かけがあった。

③学生海外派遣プログラムについて

(資料4-3)

資料を参照しながら神戸常盤大学の実施するプログラム紹介があった。来年度から、加盟校においても広報に協力をお願いしたい旨依頼があった。

質疑応答

神戸女学院大学(高地課長)より質問:「コーディネーター」の活動を教えてほしい。

コンソより回答:コンソには2名おり、学生組織の活動支援と、学生が企画するイベントを実現することが業務。防災教育やお祭りなどあらゆる内容を行う。

神戸女学院大学(高地課長):外部の人間ではなくコンソの職員なのでしょうか?

コンソより回答:その通りです。

神戸女学院大学(高地課長):謝金はどういう用途でしょうか?

コンソより回答:ワークショップで専門家を招致し講義やワークショップを行った際の講師謝金です。

<資料一覧>

(資料1) 2024年度 国際交流委員会名簿

(資料2) 兵庫県国際交流協会における国際交流拠点推進事業企画提案書

(資料3) 大学コンソーシアムひょうご神戸、兵庫県国際交流協会(HIA)、国際協力機構関西センター(JICA
関西)との3者協定書

(資料4-1) 2024年度 国際交流委員会 事業計画(案)

(資料4-2) 留学生の医療・生活支援について

(資料4-3) 学生海外派遣プログラム 神戸常盤大学

(参考資料1) 2024年度 国際交流委員会 事業予算